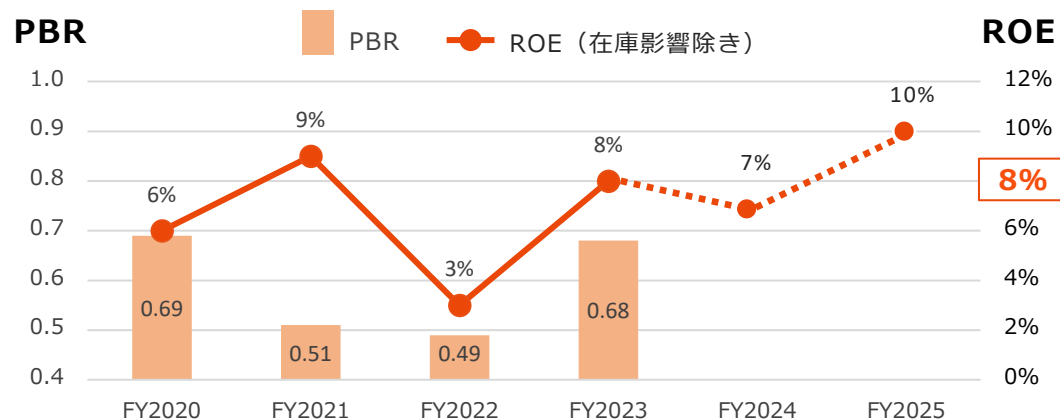


企業価値向上に向けた取組みの状況

企業価値向上に向けた取組みの状況

➤ PBRおよびROEの推移



株主資本コストは
CAPMベースで8%程度

$$PBR(\text{倍}) = 1 + \frac{\text{エクイティスプレッド}(ROE - \text{株主資本コスト})}{\text{株主資本コスト} - \text{期待成長率}}$$

PBR向上に向けた課題

- ・23年度のエクイティスプレッドは大幅に良化するも、税金費用の影響もあり、安定的なRの創出とは言えない状況
- ・「**継続的なエクイティスプレッドの創出(とりわけROEのRの向上)**」が急務
- ・適切な資本構成の実現および市場との対話や情報開示を通じた「株主資本コストの低減」と「期待成長率の向上」も重要な課題



ROEの向上(3次中計の実行による「稼ぐ力」の向上、最適資本構成の追求)による**エクイティスプレッドの創出に全力を挙げるとともに、市場との対話を踏まえた施策を展開する**

➤ 今後の取組み

ROE向上

「稼ぐ力」の強化

- ・UCLの低下(4%)
- ・ビジネスプロセス改革
- ・安定的な白油マージン
- ・五井火力発電所稼働開始
- ・機能材セグメントの収益改善

ROE向上

「最適な資本構成」の実行

- ・財務体質の良化を踏まえ機動的な株主還元を実施
- ・引き続き、「バランスシートマネジメント」で最適資本構成を追求

株主資本コストの抑制

「情報開示と対話」の強化

- ・社外取締役と投資家との対話の機会の継続設置 (投資家の求めに応じ、23年度からESG説明会に社外取締役が登壇)
- ・ガバナンス強化に関する施策の継続開示

期待成長率の向上

エネルギートランジションに向けた取組みの着実な進捗 + 「情報開示」の強化

- ➔24年度は投資家からの関心の高いCCS/CCUS、再エネに関する投資家向け事業説明会を計画



本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、
実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。

かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化
- (3) 訴訟等のリスク

などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。